

チース村にご寄付を ありがとうございました

ネパール教育支援の活動で出かけた際に、OKバジこと垣見一雅(72歳)さんにチース村まで連れて行っていただきました。電気も水道も車の通る道もない山奥の村の水田は救われ、田んぼが緑になっていました。



OKバジこと垣見さんは、どこでも人気者。字を覚えることが出来なかったお母さん達の早朝教室で、お母さん達と楽しいおしゃべりです。みんなバジが大好き。子ども達もバジの姿を見れば遠くから「マスター、バジー！」と声をかけます。バジを見て嬉しくて泣き出すおじいさんもいました。テレビ東京が取材に来ていたので、テレビに出るかな？



朝、遠くから来るホースで水をためる容器を見つけました。ホースをつまんでみるとこんなに少しの水しか流れていませんでした。「水だよ。飲む？」って子ども達が私に聞いてくれました。こんなに貴重な物を分け与えようとする彼女らの気持ちに心が揺さぶられました。



新しい取水口ができました。左下の写真の左側の取水口を大きく写したのがすぐ右横の写真です。川をせき止めて上の水路に水を運んでいます。チース村や周りの村の人たちの手作業で、新しく岩盤を砕いて水路を造りました。火で岩を熱して水をかけては石切斧で岩を砕く作業が1月から繰り返され、とうとう完成しました。水路の右側にある灰色の部分は、新たに砕かれた岩のかけらの山です。

ここから水はなるべく水平に近く運ばれて行きます。中央下の写真で取水口から距離が離れると、川の水面との差が分かるようになります。こうやって約3.5km水路をたどると、川の水面より高い場所に水田が作れるのです。水さえあれば二期作ができるそうです。ご寄付を頂いた方々のお陰で今年もできた水田が中央の写真です。

雨期の間しか作物が取れない山の上にも作れるところは全て段々畑ができています。どれだけの汗と涙が費やされてきたのか考えると気が遠くなります。チースの人たちは昔からこうやって生きてきたのでしょう。村長さんの家でごちそうになった次の日の朝、村には明るい笑い声が聞こえました。